あなたのそばで県議会（南薩地域）

開催日時　令和５年９月２日（土）午後１時30分～午後３時30分
開催場所　サン・フレッシュ枕崎
参 加 者　一般県民１６０名　県議会議員４２名
内　　容　①議会活動の説明
　　②意見交換
　　テーマ「あなたの考える南薩地域の未来について」

〇意見交換会で出された質疑の項目

１　外国人とともに共生していく社会について
２　南薩地域の観光の未来について
３　南薩縦貫道について
４　指宿市・南九州市・枕崎市に整備されている水利用施設の有効利用について
５　人口減少について
６　道路・人の流れによる南薩の活性化について
７　南薩縦貫道について
８　南薩縦貫道の制限速度について
９　フリースクールへの助成について
10　高校通学に利用するバスについて
11　公立高校の活性化について
12　少子高齢化社会の今後について
13　高齢者の活用について
14　農業・漁業における生産資材の高騰について
15　原子力発電環境整備機構（ＮＵＭＯ）の地層処分について

○意見交換会で出された質疑の主な内容

1　外国人とともに共生していく社会について

南薩地域では近年，在住している外国人が多くなってきているが，行っている取組があるか。

（郷原拓男　議員）

外国の方が地域に暮らしていらっしゃるというのは，人手不足あるいは少子高齢化の中で，産業の担い手を外国の方にも頼っていこうというような裏返しというふうに認識をしている。

具体的な数字としても，昨年の10月末現在で県内には9,900人の外国人労働者がおられて，前年比で1,020人，11.5パーセント増加している。この数字だが，びっくりすることに，平成28年と比べると倍増している。南薩地域で言うと外国人労働者の数が1,339人で，６年前が700人程度だったものが倍増している。

県では，日本語学習への支援や異文化理解・交流の促進などに取り組んでおり，令和２年の３月には「かごしま外国人材受入活躍推進戦略」を策定して，しっかりと外国の皆さん方と共生をしていくというような社会の実現に向けて，歩みを進めている状況である。

現在，ベトナムの方がたくさん来られている状況だが，この送り出し国は，今後，ミャンマー，フィリピン，インドネシアなどの国々に及んでいくということで，それとともに，国際航空路線の創設や復活なども進めてられていくのかなといった状況である。

県，枕崎市，県内各地の市町村で外国の方々と共生する社会の実現に向けたプログラムが進められているが，今後もそういった対応は非常に重要なことだと思っている。質問いただいた学生の方にも，ぜひ世界各地に友達を作っていただき，外国の方に日本を理解していただくとともに，自身も外国の文化，歴史，風土といったものへの理解を深めていただけたらと思っている。

2　南薩地域の観光の未来について

南薩地域には，吹上浜砂丘，坊・野間のリアス式海岸，天然砂蒸し温泉などがあるが，このような豊かな自然をどのように観光に生かしていくのかについて知りたい。

また，観光客が利用できる交通機関の数が減少しているが，それをどのように増やし，移動を楽に動きやすいようにするのか教えていただきたい。

（田畑浩一郎　議員）

今，官民一体となって観光に取り組もうということで，観光かごしま大キャンペーン推進事業を行っている。南薩地域をはじめとする本県の魅力的な観光資源を生かして取り組んでいこうと。そういう中で，旅行会社へのセールスやＳＮＳを使った情報発信，航空会

社やＪＲ等とタイアップした観光キャンペーンの展開などに取り組みながら，国内外の観光，誘客促進に取り組んでいるところである。

また，現在，自転車，サイクリングが流行っていることから，県サイクルツーリズム推進協議会というものを設置し，本県の豊かな地域資源を生かしたモデルルートの検討などの取組をしているところである。

地域において，それぞれの観光資源というものが違い，特色があると思う。枕崎においては，キャンプ場として整備されている火之神公園，天然温泉のなぎさ温泉があり，港町ということでかつお節が盛んであり，かつお節体験などもある。今，枕崎ではこういったものを生かして観光に取り組んでいるようである。枕崎市のお魚センターに昼食に行ったが，もう少し「港町」という風に，お魚センターもできていれば，観光につながると皆さんも思うのでは。大きな生きた魚，新鮮な魚介類が販売されていればもっともっと観光客が来るのかなと。そういった感じで枕崎の方も頑張ってもらえば，さらに観光客が増えるのではと感じたところである。

交通関係については，県地域公共交通計画の策定を関係する交通事業者と協議を重ねながら進めている。また，地域公共交通の維持・確保を図るため，バス運行会社への補助を行っている。先ほど，人手不足の話題があったが，運転手不足への対応のためにも，交通事業者による就職説明会に助成をしたり，免許の取得等に係る経費について支援したり，県では取り組んでいるところである。

３　南薩縦貫道について

枕崎は港が玄関で美しい港がある。南薩縦貫道を自動車専用道路として枕崎まで整備していただきたい。そうすれば車で観光客も増えて枕崎も盛んになると思う。

枕崎市や周辺地域の人口減少に伴い，商業活動が縮小しており，病院をはじめとして交通の便が悪いことで様々なところに暗い影を落としている。枕崎を活性化させるため，南薩縦貫道を自動車専用道路として枕崎までつないで欲しい。

移動時間が短縮されれば，枕崎港の漁港としての有効活用，農産物，焼酎，かつお節の輸送コストの軽減につながる。枕崎や坊津周辺の経済活動の利便性，離島の利便性，自然災害発生後の県全体の復興対策など南薩縦貫道の自動車専用道路の役割は待ったなしである。

大隅，北薩等は新しい高速道路がどんどん整備されている。枕崎，坊津はもうこれ以上取り残されたくない。

（西村協　議員）

県議会議員になって９年目だが，最初の一般質問でもこの南薩縦貫道の件を取り上げた。

何としても自動車専用道路として枕崎まで整備してもらいたい。県の方とすれば，予算の関係とかいろんな問題で，出来ない出来ないという話はあるが，その中でも，県議会議員として一生懸命やっていきたいと思っている。

「南薩縦貫道全線開通後にどのような効果が期待できるか」と県議会で当時の知事に質問したところ，「南薩縦貫道は九州縦貫自動車道や南九州西回り自動車道と一体となり広域交通ネットワークを形成する重要な地域高規格道路である。現在，全線にわたり工事を行っているところであり，来年度，28年度には全線が開通することとなる。これにより，かつお節やお茶など，全国に誇る農林水産物の迅速な輸送が可能となるほか，知覧武家屋敷等の歴史的施設や風光明媚な海岸線など，豊かな自然を生かした観光地を結ぶ周遊ルートが形成されるなど，南薩地域の振興に大きく寄与するものと考えている。」との答弁があった。このように答えているが，全くこの思った通りの道路ができていない。

南薩縦貫道の入口である谷山インターチェンジにも「知覧」という文字が全くない。「南九州」という文字もない。標識のことについて，県議会で「谷山インター付近の縦貫道に案内する道路標識のほぼ全てに「南九州」「枕崎」の表記がなく，枕崎は国道225号によって案内している。このような状況をどのように考えているか」と質問したところ，「案内標識については，道路利用者に道路名や目的地，方向等を表示するものであり，ご指摘の案内標識については，南薩縦貫道の完成後に，既設の案内標識に道路名のみを追記したものである」との答弁があった。

更に「今後，どのように利用者に分かりやすい道路標識の整備に努めていくのか」と質問したところ，１ヶ月ぐらいで南薩縦貫道に「南薩縦貫道」という標識が立てられた。しかし，実際に必要なのは「南九州」と「枕崎」につながっている事が分かりやすい案内標識であることから，再度，総合政策建設委員会の中で相談し，鹿児島から枕崎まで視察を行い，問題点を再認識いただいた。国体も開催されるので早急な対応をしたいと言っていただいたところである。

また，南薩縦貫道は概ね60キロメートルで走れるという話であったが，全く満たされていない。以前，「地域高規格道路というのは，車が平均して概ね60キロメートルで，すっと走れるような道路である。一般の今ある町なかを通る，霜出の町なかは車の走行速度を平均して測ってみると時速39キロメートル。時速60キロメートルには遠く及ばない。引っかかり引っかかり走るような道路ではなくて，今から造る南薩縦貫道は地域高規格道路で時速60キロメートルで，すっと走れる」と発言があったが全く違う。

これに関して，私たちも未来に向かって，みんなで力を合わせて南薩縦貫道をしっかりと整備促進していきたいと思っている。

4　指宿市・南九州市・枕崎市に整備されている水利用施設の有効利用について

畑末端のスプリンクラーの施設は35年前のもので老朽化している。特にお茶の潅水・防霜に使われている施設は，土中に管を埋め込まれているため，アルミ管が破裂し漏水が多く，作物に悪影響を起こしたり，水不足の原因になってると思う。南薩畑かんでも早期のスプリンクラー更新事業の導入を進めて欲しい。

（前野義春　議員）

私は国営第１号という笠野原畑かんが通っている鹿屋の出身であり，農家から同様の要望がたくさんある。先日は沖永良部の友人からもあった。

南薩畑かんについては，パイプラインとかスプリンクラーというのは，昭和47年から平成6年にかけて整備が終わったところ。おっしゃる通り老朽化しており，あちこちで破裂が起こっている。

鹿屋ではファームポンドというタンクから1メートル20センチほどの管が農道を通ったり市道の下を通っており，それが所々落ちる。そういうものについて，今，国は施設の長寿命化，長寿命化対策事業をやっている。道路・トンネル・ダムなど今あるものをできるだけ長く使うという事業。パイプライン等の畑かんの施設についてもその事業が導入されている。

畑の畦のところまでは県や国の事業により水がきており，畑の中のスプリンクラーについては，基本的に畑の持ち主の負担となる。畑の中に埋め込んであるものや，水をかけたい時だけにパイプをつなぎスプリンクラーをさすといったものが老朽化し水漏れした場合は個人負担であるが，一つの地区がまとまれば，補助事業として採択する方法も取られている。そのことも念頭に置いて，お住まいの役場の農政担当部署や地域振興局等に御相談いただきたい。

5　人口減少について

少子高齢化が叫ばれてから30年，具体的に何か進んでるのか。

（柳誠子　議員）

私は南九州市の川辺の出身だが，過疎化が本当に進んでおり隣近所，本当に空き家だらけになっている。深刻な状況は，ここ枕崎も同じではないかと思っている。2022年10月1日現在の鹿児島県の推計人口は156万3,124人。2021年10月から2022年の9月までの１年間で1万3,364人減少しており非常に深刻である。

このような状況を受け，県では「かごしま子ども未来プラン2020」の取り組みの中で，鹿児島県独自の少子化対策というのも行っている。不妊，あるいは不育症に悩む御夫婦の精神的・経済的な負担の低減を図るために，不妊治療費等の一部を助成している。また，鹿児島大学と連携し，産科医が不足する県立病院等の地域の中核的な病院等に産科医を派

遣したり，産科医がいない離島等に住む妊婦の経済的負担を軽減するために，健診であるとか，出産，通院する交通宿泊費の一部を助成する取り組み，こういうこともやっている。

子育てへの経済的負担軽減策としては，保育所等を利用する多子世帯の第３子以降の子供のうち，0歳から2歳の保育料を助成するといったことも行っている。

子育て支援の強化策としては，子ども医療費助成制度。これは見直しが喫緊の課題と今言われている。環境厚生委員会にもこれまでたくさんの陳情が出されており，私ども多くの議員も知事に対して質問を行っている。6月議会でも質問が出たが，知事からは「子ども医療費助成制度の見直しについては，子育てしやすい環境整備という観点から検討を進めていきたい。対象年齢をどうするか，自己負担をどうするかなど，制度内容に様々なパターンがある。自動償還払い方式から現物給付方式へ移行した他県の医療費の推移や，制度変更に至るまでの取組等については調査を行っている。今年度末までには検討結果を示したい」という答弁があった。もちろん私ども県議会も，早急な見直しができるように後押しをしていきたいというふうに思っている。

また，昨今の地方回帰，地方に移住しよう，移り住もうという流れもある。これを促進するための情報発信を行ったり，相談対応として市町村支援を強化している。県外からの移住者数が若干ではあるが増加傾向にある。令和２年度が2,051人，３年度が2,077人，４年度が2,631人ということになっている。

この人口減少，少子化というのは，もちろん鹿児島県だけではなくて全国的な課題である。特に私どものような地方では深刻な状況にあるということで，もちろん県や市町村の取組だけではもう限界があるわけで，子どもの，例えば医療費の無償化，学校給食の無償化，高等教育の無償化，大学や専門学校等の無償化を図っていく必要があると思っている。こうする事によって，やっと少子化問題が少しずつは解決していくと思っているところである。県だけではなかなか難しい。こういった問題を私ども県議会が引き続き国の方に実情を伝えて予算を獲得していきたいというふうに思っている。

６　道路・人の流れによる南薩の活性化について

枕崎は位置的にも隅っこの町で，南薩のどの地域よりも一番厳しくなるのではと感じている。経済効果というのは，道があり，人が運んでくるものと考える。枕崎に人が来ることで，行き帰りに他の都市にも人が寄ることになる。例えば，枕崎のランドマークであるお魚センターの隣の県の土地に釣り堀など，集客につながるような開発を考えてもらえないか。

（園田豊　議員）

交通網の整備，道路網の整備というのは，その地域の日常生活，そしてまた社会生活や経済活動を行っている上で本当に地域の抱える最重要課題の一つでもあると思う。県議会議員にも道路の整備の相談が多い。南薩地域は海に面した地域であり，急傾斜地の中を走るなど，国道，県道，市道それぞれの問題を抱えている。先ほどから話がある南薩縦貫道の問題や，薩摩半島を周っている国道226号の問題などがある。私は南さつま市の笠沙

町に住んでいるが，野間池から坊津の久志までは狭い国道がずっと続いている。そういった中で地域の方々は生活しているのが現状である。野間池には，以前は笠沙恵比寿といった観光施設があったが，トンネルができて道路の利便性が良くなったときには施設が無くなってしまっていた。10年遅れたのかなという思いを持っているが，今後がまだ大事だと思っている。

今後，坊津町久志の拡幅，南九州市の県道飯山喜入線の飯山工区や，指宿市の県道指宿鹿児島インター線の池田工区などの整備をこれからも進めていくという県からの話もある。私どももしっかりとそれに対応しながら，皆様方と協力体制をとっていくことが必要であるというふうに思っている。特に今日は枕崎市ということで，国道270号は金山バイパスの整備を進めており，枕崎市道野町から田布川町のうち0.9キロメートル区間も整備していくことで取り組んでいるところである。

道路整備というのは，地域の日常生活や経済活動にも大変重要な問題である。名義変更が行われず土地を買って道路整備ができないという登記上の問題もある。道路整備の土地の購入といった部分で皆様方にも御協力をいただきながら整備を促進してまいりたい。

（西村協　議員）

港の中というのは魚が結構釣れるので，お魚センター近くの県の土地で，釣り堀をしたらどうかといった話もあったが，釣り堀となると，縦割り行政の中で，なかなかうまく民間や我々の意見が通らないことがある。少しでもそういった土地を有効利用という形で，私どもも一緒になって考えていきたいというふうに思っている。

7　南薩縦貫道について

枕崎は日本一のかつお節の産地である。また，枕崎漁港は全国に13ある特定第三漁港の唯一の鹿児島の漁港である。なぜ南薩縦貫道の自動車専用道路が知覧までなのか。活力のある枕崎がなぜ生かされないのか。県の宝の持ち腐れだと思っている。

（西村協　議員）

枕崎市民として，何としても南薩縦貫道を自動車専用道路として枕崎まで整備してもらいたいという思いがある。南薩縦貫道だけは，しっかりしたものを造っていかねばならない，これが議員になってからの私の思いである。毎回，県議会で質問するが県からは，大きなお金がかかるなどと，なかなかうまくいかない。枕崎市民の力として，南薩縦貫道を何としても自動車専用道路を含めて考えてもらえるよう，皆さんと力を合わせてやっていきたいと思っている。

（瀬戸口三郎　議員）

西村議員は毎回，南薩縦貫道に関して県議会で取り組んでいる。私も一生懸命，南薩縦貫道について協力をできる限りしていきたいと思っている。

8　南薩縦貫道の制限速度について

南薩縦貫道の制限速度が知覧インターチェンジまでは時速70キロメートル，それから枕崎まではずっと時速50キロメートルとなっているがどうにかならないのか。

（西村協　議員）

南薩縦貫道のうち，知覧インターチェンジから霜出までの道路は素晴らしくいい道路である。ここが制限速度が時速50キロメートルとなっている。県警が制限速度を決めているとのことだが，私からは，県が時速60キロメートルで走れる道路として造ったのだから，責任を持って60キロメートルで走れるように安全対策をとって，県警と相談してくださいという話をしているところである。

9　フリースクールへの助成について

娘が不登校で鹿児島市内のフリースクールに所属している。教育委員会による適応指導教室も枕崎には無く，子どもたちが家から一歩出て行ける居場所が無いと感じている。鹿児島市内には割とフリースクールがあるが，月3万円の費用がかかり，子どもたちも後ろめたい気持ちになる。

フリースクールに助成があれば，フリースクールが立ち上げられやすい環境，通いたいと思う人たちが通える環境が出来ていくのではないかと思う。お金がかかるので連れて行けないという声は本当にたくさん聞く。ぜひ予算化していただきたい。選択肢がないことがまず問題であり，選択肢があれば不登校という言葉すら無くなると思う。県政にしかできない，県議の方にしかできないことが，たくさんあると思うので，ぜひ助成ということをお願いしたい。

（ふくし山ノブスケ　議員）

県議会では，毎年，政策立案推進検討委員会を立ち上げ，県に対して政策を提言したり，条例を作るなどをしているが，不登校の子どもたちも多いということで，今年のテーマが「不登校対策及び子どもの居場所づくり」となっており，大いに議論を行っている。私もこの何年か県議会でこの質問をしてきたが，小中学生で学校に行けない子どもが約3,000人ぐらい。そのうち，フリースクールに行っている子どもたちは，170～180人しかいない。１年以上前までは100人ぐらいしかいなかった。フリースクールに通う子どもも増えているが，そのうちの半分ぐらいしか学校と同様に出席扱いになっている人はいない。実は，どういう状況に置かれている分からない子どもたちも案外少なくないということもある。子どもの居場所については国も方針を変え，文科省も，もっと積極的にいろんな形での居場所で子どもたちの存在を認めていこうと，出席扱いにしていこうといったようなこともある。

フリースクールは県下41あるが，半分以上が鹿児島市内。そうすると行きたくても月

に３万とか４万円ぐらいかかる。義務教育であるにもかかわらず，実はお金がかかるといったような形になる。このフリースクールに何らかの支援ができないかといったような議論を今しており，いろんな調査をしている。

これまで県は，やはり憲法上の問題，学校としての位置付けの問題等もあり，フリースクールにお金は簡単に出せないといったようなことである。しかし，いろんな方法で支援の仕方をもっと工夫をすれば，いろんな自治体でやっているところもあるわけで，その辺を委員会の中でちょうど議論しているところなので，また何らかの形で経過とか結果については，お知りになる機会があるだろうというふうに思う。

１０　高校通学に利用するバスについて

毎朝バスで登校しているが，あまりバスが通っていなかったり，朝早かったり遅かったりで差が大きく不便に感じている。何か対策があったら教えていただきたい。

（藤崎剛　議員）

今，県立高校，特に鹿児島市内以外の高校については，バスの便をどのように維持するかが大きな課題となっている。先般，バスの協会の方とも話をしたが，一生懸命，バスの運転人員を募集するが，なかなか運転手が集まらない現状がある。運転手が少なくなり，鹿児島市内の中学校でも通学用のバスの便が無くなったところもあり非常に厳しい状況になっている。

バス会社はコロナ禍の中でも支援が手薄だったと感じている会社が多く，今，国に対しても積極的な要望活動をしているところである。運転手募集，バス会社自体の運営費の補助を含めて，県議会もしっかり受けとめている。バスの業界も，バス会社同士が連合を組んで，国土交通省にも要望してるところである。まだ改善の兆しが見えないのは残念なところであるが，この辺をしっかりと受け止めてこれからも頑張っていきたいと思っている。

（宝来良治　議員）

伊集院高等学校は学区を広げた時に，原動機付自転車での通学を許可した。鹿児島商業高等学校もバスの減便で，原動機付自転車の通学を許可したりしている。教育委員会等ともいろいろと折衝しながら，あらゆる方向で皆さんが便利な方向に変えれればいいのかなと思っている。

１１　公立高校の活性化について

少子高齢化が進み，南薩地域でも毎年，高校に入学する生徒の数も少なくなっている。私の通う高校でもＳＮＳなどを使って学校をＰＲする活動を行っているが，南薩地区には多くの公立高校があり，どこも同じ取組をして生徒の奪い合いになっていると思う。また，私立高校は学習環境やバス通学の環境も整っており，人が多く流れている現状だと思う。この南薩地域を活性化させていくためには，高校生など若い世代の力が必要となっていると思う。公立高校を活性化させる対策などはあるか。

（米丸まき子　議員）

公立高校を希望する方がどんどん減って，７割を切った段階になっている。私立高校は切磋琢磨して本当に自分たちの学校をどんどん良くしようと進化が続いている。しかし，県立高校はなかなか進化が進んでいないと感じるところが多い。

私は３つ考えていることがある。１つが魅力ある学校づくり。例えば熊本の高校だが，マンガ学科を作ったりだとか，そういった時代が求めている高校を本当に革新的に作っているというところ。もう１つが学区制。今，まだまだ学区制が鹿児島県はあり，よその地域の県立に行くのはとても難しい状況であるが，その学区制を廃止するべきだということ。もう１つが民間の人材。民間の人材を入れて，例えば水産高校だったら，今，本当に最先端の養殖業をやってる方とか，いろんな方がいらっしゃると思うが，民間の力とかを入れて，高校を活性化させていくべきだと思う。これから20年経った後，今ある職業が60%ぐらいＡＩの力で無くなる時代になっている。県立高校も変わる時期に来ている。特に鹿児島は離島などすごく魅力的な場所があり，例えば種子島だったり，ここ枕崎は，かつお節が有名な水産の町である。すごくそれにも特化して研ぎ澄まされたような高校をつくれば，全国からこの鹿児島，こういった枕崎のすばらしい人々が暮らしている町に移住して，学区，県，国を超えても学びに来る学生とかも増えると思う。そういったことを今，私の方では提案しようと思っている。

１２　少子高齢化社会の今後について

５年前に帰ってきて家業を継ぎ，２人の子育て真っ最中の菊農家である。鹿児島県の少子高齢社会の今後について質問したい。日本中が急激な人口減少社会となり，今まで当たり前だったと思うことが機能不全に陥る方向である。枕崎においては，産科での分娩が行えなくなり，病院も次々と閉鎖している。小中学校の生徒数も減少し，やがての統廃合は避けられないと思う。

（岩重あや　議員）

菊農家をされているということで，やはりこの枕崎，南薩地区というのは，農業，水産業という第１次産業が大変盛んなところで，人口減少，マンパワーが必要な部分というの

は大変多いかと思う。県では今，例えばＵＩターンを促進していこうといった取り組みをしている。「もどってみらんけ？かごしまに！」，通称「もどかご！」といった取組だとか，関東の都会の方に出て行った人達に，補助金を出して，戻ってきましょうよといったような呼びかけをしたり，鹿児島の職業のＵＩターンのフェアをしたり。また，高校を卒業してから，大学，専門学校の進学の関係で県外へ出ていき，そのまま帰ってこなかったという若い人たちもいるが，ご質問いただいた方のように，ある程度外に出て勉強してから帰ってきましたといった方たちが増えるように，県外の方にも今呼びかけをしているところである。少子高齢化，本当に待ったなしの状況で，特に鹿児島はマンパワーが必要なところがまだまだあるかと思っている。そこへ向けて県としても取り組んでいるところである。

１３　高齢者の活用について

私どもの老人クラブは県や枕崎市から助成を受けているが，老人クラブの構成員数が30名以上という要件が半分の１５名となった。これにより，老人クラブのパワーを何とか地域で生かしていけるのではと思う。老人クラブのパワーを活用していただきたい。また，マンパワーは自分たちで頑張れるが，助成金については必要であるため今後もお願いしたい。

（岩重あや　議員）

老人クラブの助成とは少し違う観点からだが，今，国の全体の取組として，なるべく働ける人は高い年齢まで働こうといった取組がなされている。40～50年前までは定年が55歳，そして60歳となり，今65歳まで何らかの雇用確保が義務となり，今70歳という呼び声が聞こえてきている。私が県内で出会った最高齢の働き手は94歳の方。94歳の方が週3日働いてるということで，本当に今の70歳，80歳の方たちが，会社の働き手として，戦力となっているところも特に地方においては多い。やはり70代の方たちも元気で働けるうちは働けるように。そして社会参画していけるようにということで，私たちも今日いただいた声をしっかりと上げていきたいと思う。

１４　農業・漁業における生産資材の高騰について

１次産業である農業の構成員のほとんどが60代。また，農業資材がものすごく値上がりしている。肥料は約40～50％，資材も大体30％以上は上がっているが，農産物の価格は上がっていない。卵が上がったがほんのわずか。農家，漁業など１次生産のものが物価に対して上がっていない。これは深刻な問題。非常に高齢化が進んでいる。全体として農業の生産力が落ちている。農産物，農業，漁業などの１次産業への支援はどうなのか。これは鹿児島県全体，日本全国でいえることである。

（前野義春　議員）
　まさに日本の農林水産業を営んでいる方々の共通の意見である。皆さんが朝晩に買い物をされる食料品とか様々な物品が3万点以上値上がりしている。これは工業製品，加工品である。農林水産物は横ばいで，コロナ前と同じ価格である。このことは今，農林水産省でも何とか農林水産物のコストを価格転嫁をしようという動きが始まったばかりである。畜産をされる方の飼料も上がった。肥料はものによっては３倍上がっている。すべて農家の方々が負担をしている。牛を出荷をされる方，豚を出荷をされる方，あるいは農産物を出荷される方，経費がかかっている。農薬，人件費，牛・豚の餌の経費がかかるが，農林水産物は価格に費用分を転嫁できていない，根本的な問題である。農林水産業はなぜこうなっているのか。農林水産物は価格形成のあり方が，社会情勢についていけていない。一番負担がかかるのは生産者である。この事を県議会で取り上げるつもりである。今あったような意見を農林水産業が盛んなこの鹿児島の地で声を上げていきたいというふうに思っている。

１５　原子力発電環境整備機構（ＮＵＭＯ）の地層処分について

　50年後の日本は１億人を割り込み，人口はこれから７割に縮小していく。10人に１人が外国人という時代が来る。枕崎の未来を守るために，原子力発電環境整備機構，いわゆるＮＵＭＯの地層処分で，この枕崎のこれからを担っていく若者の方々に，将来の選択枠を残せたらと思っている。国からの交付金で町の発展を促し，それでも枕崎市の財政が厳しいときは，その時の時代の人たちが誘致を決められる。必要なければ断れるありがたい事業である。随時，勉強会を開催するので，ぜひ参加いただきたい。

（おさだ康秀　議員）
　今の話は御要望という形で，私どもとしては承りたい。